富士興産 健康経営に注力

社食サービス好評 女性相談窓口も設置

特金スクラップ問屋の富士興産（本社＝大阪市浪速区、赤嶺和俊社長）はこのほど、経済産業省と日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）」に2年連続で認定された。社員の健康管理策として昨年から設置型の健康社食サービスを提供して好評を得ているほか、女性社員向けの健康相談窓口も設置。今年も新たな施策を講じて3年連続の「健康経営優良法人」認定を目指す。

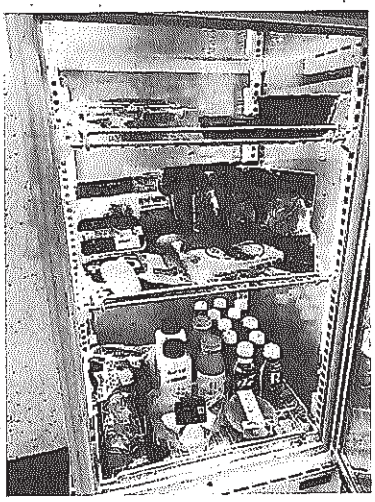
設置型の健康社食サービスは、オフィス向けの健康食品デリバリーを利用。メニューは栄養管理士が推奨する惣菜、サラダ、果物、スイーツ、ドリンクまでを豊富に取りそろえ、購入に際しては会社が半額を負担する。

本社事務所と大正倉庫（大阪市大正区）で昨年から始めて以来、オリジナルメニューが安価な上に半額のため利用率は高い。専用の電子決済アプリでバーコードを読み込んで購入するため現金不要。社内の人気メニューを管理し、豊富な提供アイテムから商品構成を毎月見直している。

女性社員向けの健康相談は、専門スタッフが窓口として個別相談に応じるもの。女性の活躍の場を設けるとともに健康の維持・増進をサポートする。今春には大正倉庫の事務と現場業務に計3人の女性社員が入社する。現場業務への女性採用は同社でも初めて。

同社は2年前から健康経営に向けた取り組みを開始した。1年目には全社員を対象に、歩数や身体データを記録する健康管理アプリを導入したほか、禁煙外来治療の補助、スポーツジム利用の補助などを実施。また、産業医と顧問契約を結び、健康管理のアドバイスを受けるほか、昨年からはメールマガジン配信を行っている。

赤嶺社長は「社員の健康は会社の利益にもつながる。ライフワークバランスを充実し、3年目もアイデアを出しながら新たな活動をしていきたい」と意気込みを語った。



社内に常備している健康社食

中国・非鉄マーケット
インジウム、小幅上伸

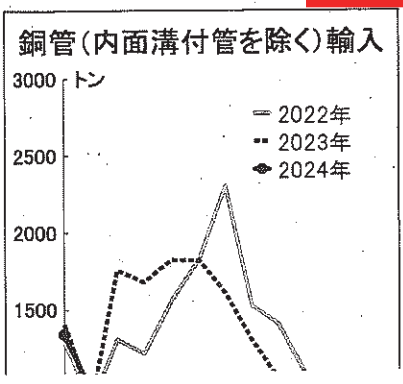
インジウム相場は3月中旬にITOターゲットの出荷数量が前年の水準を上回るとの見方が広がったことからトン2000ドル前後にしている。

今後も原材料などのコストの上昇と需要の増加が続くことから需給は一定程度タイトになるとの声がある。業

銅管975トン 9カ月ぶり増
2月輸入量
需要復調映す

財務省の2月の貿易統計によると、銅管（内面溝付管を除く）の輸入量は前年同月比8％増の975トンと9カ月ぶりに増加に転じた。最大用途先である家庭用エアコンの造り込みが来年度の需要期に向けて活発化。「給湯器関連の需要に底打ち感が見られ始めた」（都内の伸銅品問屋）ことも寄与したとみられる。業務用関連も人手不足による工期遅れで大型機向けは依然として低調だが、小型機向けが人流回復などを背景に復調し始めた。

国別の輸入は、国が25％増で2022年のプラスに転じた。一方、ベトナムの224トンは4％減の21％減少。前年同月度の輸入がシアから



丸紅調べ
アルミ新地金港湾在庫
3月32万トンと低水準

丸紅がこのほど発表した3月のアルミニウム新地金の国内主要3港湾（横浜・名古屋・大阪）在庫は、前月比4・7％減の31万5500トンと、3カ月ぶりの低水準に低下した。前年同月比では14・9％減少している。需給が大きく改善したわけではないものの、地金を必要とするプレーヤー増えたことで在庫調整が進んだようだ。

適正な在庫水準といわれる約30万トンを引き

港湾在庫

（単位：トン）

年2月	23年3月
4,100	165,900
7,900	180,900
8,900	23,900
0,900	370,700

（丸紅調べ）

減った。前は18・4％大阪は1万と、前月比加した。前は18・0％

田中貴社＝東京社長）は の売りと いると 4月―24

田中